

教育課題研究「教科における読解力の向上に関する研究」実践授業計画
－国語科（中学校１年）の読解力を育成する研究－

1 単元名 言葉を考える

教材名 ○言葉を考える

- 「言葉は変わっていくけれど」 清水義範
 「テレビ言葉の『聴き方』」 梶原しげる
 「今どきの言葉づかい」 金田一秀穂

○文化庁「国語に関する世論調査」（一部抜粋）

2 本単元における読解力育成の目標

〈読む活動〉取り出す：三人の筆者の主張とその根拠をそれぞれ取り出してまとめる。

〈表す活動〉まとめる：言葉についての自分の考えを表すにあたり、自分の考えに近い筆者の考えを引用する。

創り出す：それぞれの筆者の言葉についてのものの見方や考え方を理解し、自分の経験や知識と結び付けながら、自分のものの見方や考え方を深め、伝え合う。

3 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	A 話す・聞く能力	B 書く能力	C 読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・国語に対する関心をもち、進んで話し合ったり書いたりする。	・自分の考えを相手に理解してもらるように話したり、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ったりしている。(ア) ・自分の考えや気持ちを伝えるのにふさわしい話題を選び出し取り上げている。(イ)	・課題に関する材料を集め、それを基にして自分の考えをまとめている。(ア) ・伝えたい事実や事柄、課題、自分の考えや気持ちを明確にしている。(イ)	・目的や必要に応じて要約している。(イ) ・文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くしている。(オ) ・様々な文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けている。(カ)	・語句の辞書的な意味と文脈上の意味の関係に注意して読み、事象や行為などを表す多様な語句に関心をもっている。(イ)

4 単元の指導計画（全4時間）

時 目標	◇読解力育成に着目した 主な学習活動	指 導 内容	テキスト	読解力の要素		
				読む		表す
				取	ま	創
1 テキストの要点をとらえ、それぞれの筆者の立場について理解する。 ワークシート①	◇三つのテキストを読み、それぞれの筆者の主張と具体例を一つの表にまとめる。 ・それぞれの筆者の考えを比較する。	Cカ Cイ	教材文	○		
2 テキストに書かれた具体例を理解し、主体的に考える。 ワークシート②	・文化庁の世論調査の結果を読み、言葉の変化の例をさらに知る。 ◇ことわざの誤用、テレビ言葉、ら抜き言葉などについて具体例に類似したことが自分の生活の中にないか、話し合いながら考える。 ◇これらの言葉を自分ではどう思うか、違和感のある言葉、ない言葉など自分なりの基準を設けて分類し、グループで意見交流をする。	Cカ Cオ 言イ 関 Aイ	教材文 世論調査		○	

3 テキストを踏まえて、自分の言葉遣いや言葉の習得についての考えをまとめ、発表のための原稿を書く。【本時】 ワークシート③	◇前時の意見交流を踏まえ、「自分はこれから新しい言葉、意味が変わった言葉とどのように付き合っていくか」ということについて意見をもつ。 ◇意見をまとめるために引用したい部分をテキストから選択し、要約する。 ◇自分の考えを述べる発表原稿を書く。	C才 関 Cイ Bウ Bア	教材文 世論調 査	○			○		○
4 言葉や言葉遣いについての考えを伝え合う。 ワークシート④	◇フリップに自分の考えを簡潔に表す。 ・フリップを見せながら発表する。 ◇発表者のものの見方や考え方と自分のものの見方を比べた上で自分の考えを深め、言語生活に活用する。	Bイ Aア 関	自他の 発表			○			○

5 本時（第3時／全4時間）

ア 本時のねらい

- ・テキストを踏まえて、自分の言葉遣いや言葉の習得について主体的に考える。
- ・テキストを引用しながら自分の考えを簡潔に表すことができる。

イ 本時の展開

○創り出す 書き手のものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を深めて、自分の経験や知識と結びつけながら表現する。

学習活動		○評価規準■指導上の留意点▲評価Cの生徒への手だて	
導入 (10分)	1 前時の感想交流を振り返りながら本時の学習内容を確認する。 創り出す場面	■前時の意見交流を振り返らせる。本時の学習の展開について説明する。一つ一つの活動で区切っていくが、 ワークシート③ の説明を読んで分かる生徒は先に進んでよい。 ■前時の意見交流や文化庁の「国語に関する世論調査」を参考にさせる。 ■「新しい言葉、変化した言葉を積極的に使うか、使わないか。使う場面や言葉の種類に条件があるならそれはどんなことか。」など構想メモを作らせる。 ○テキストに表れたものの見方や考え方を基にして、具体的な場면을想定しながら自分の考えをまとめている。 【C才】 ▲前時のプリントや資料を読み返させ、自分が言葉を使う場면을具体的に想像させる。	
展開1 (15分)	2 「自分はこれから新しい言葉、変化した言葉とどのようにつきあっていくか」というテーマで、意見をもつ。		
展開2 (8分)	3 テキストから自分の意見を述べるのに関係する部分を取り出す。 創り出す場面	■自分の意見はテキストの筆者のどの主張に近いかを明らかにさせる。その部分を必要に応じて要約し、構想メモに記入させる。 ○テキストから自分の考えを表すために適切な部分を要約しながら引用している。【Cイ・Bウ】 ▲第1時の学習プリントに立ち返り、3人の筆者の主張をどのようにまとめたか確認してその文言を引用させる。	
展開3 (15分)	4 自分の考えを200字～400字の発表原稿にまとめる。	■「自分はこうしたい」、「考えの根拠」、「具体的な言葉の例示」及び「(テキストから考えたことがわかるような)テキストの一部からの引用」の4要素を含ませる。書く順序は工夫させる。 ○自分の考えを的確に表すためにふさわしい具体例を探し、それを基にして自分の考えを述べている。【Bア】 ○国語に対する関心をもち、進んで話し合ったり書いたりする。【関】 ▲構想メモの4要素をつなぐ言葉を提示する。「たとえば」「なぜなら～からです」「○○さんも～と書いているように…だと思います」など。	
まとめ (2分)	5 次時に、自分の考えにタイトルを付けた上で発表することを知る。		

テキストの要点をとらえ、それぞれの筆者の立場について理解しよう

3つの文章の内容を項目にしたがってそれぞれまとめましょう。

題名	筆者	筆者の 考え	具体例

★今日の学習でわかったことや感じたことを書きましょう。

教科書に出てきた具体例、先生から提示された具体例、自分の知識や経験からみつけた具体例など、言葉の変化の具体例について、あなたの感想を「違和感がある」「違和感はない」の2つに分けてみよう。※違和感：周りのものごとと合わない。変な感じがする。じっくりこない。

違和感なし

違和感あり

その他。条件つきなど…

グループで感想の交流をしよう。ほかの人と自分では、同じ考え方の部分と違う考え方の部分があることに気付こう。多い方がよいのではなく、自分の感じ方を大切にしよう。

☆感想の交流からわかったこと

自分の考えを創り出そう

3つの文章には、それぞれ「使い方や意味が変化した言葉」や「新しい言葉」についての筆者の考えが書かれていることがわかりました。

また、変化した言葉や新しい言葉は、身の回りにたくさんあることを知りました。

さて、あなた自身はこのような言葉とどのように付き合っていきますか？

「言葉の正しい意味を知って正しく使いたい」

「どんな言葉も気にしないで積極的に使う」

「新しい言葉は積極的に使いたいけれど、意味を変化させて使ってはいけないと思う」

「時と場合による。たとえば…」

「新しい言葉は使いたいたいけれど、この言葉だけはいやだ」

などなど：言葉についてのあなたの考えを聞かせてください。

次の時間に『言葉を考える』意見発表会』を行います。今日はそのための発表原稿を書きます。

☆意見発表のための構想メモ

自分の考えの中心はこうです。

たとえばこんな言葉について考えました。（具体例）

なぜそのように考えたのか、理由を説明します。（根拠）

3人の文章の中で、「誰の」「どんな考え」に近いです。（引用）

☆メモをもとにして発表原稿を書こう。どの順番で書けば自分の意見が効果的に伝わるか工夫しよう！

「言葉を考える」意見発表会

みんなに意見を伝えるための工夫をしよう。

フリップ（画用紙）に、自分の意見を効果的に伝える「ひとこと」を書こう。題名のようなものでもいいし、標語のようにしてもいい。印象に残るような言葉を書いて、見せながら発表すると効果がある。

みんなの意見を聞いて、自分の考えと比べよう。

他の人の話を聞いて、「共感したこと」、「自分の意見とは違うと思ったこと」をメモしよう。

発表者	自分の考えと…（どれかに○をする）	どんなところが…（発表の内容を書く）
	似ていた 反対だった 一部が似ていた 話題が違ったが、共感した 話題が違って、自分とは考え方も違った	
	似ていた 反対だった 一部が似ていた 話題が違ったが、共感した 話題が違って、自分とは考え方も違った	
	似ていた 反対だった 一部が似ていた 話題が違ったが、共感した 話題が違って、自分とは考え方も違った	
	似ていた 反対だった 一部が似ていた 話題が違ったが、共感した 話題が違って、自分とは考え方も違った	

☆他の人の意見を聞いた感想を書こう。

--